

ZigBee を利用したユビキタスネットワーク技術の研究開発（沖電気工業株式会社） 平成17年度採択評価結果

| 点数 | | 合計点数 | 総合所見 |
|-------|----|------|---|
| 技術評価 | 45 | 84 | <p>ZigBee はユビキタスセンサネットにおけるネットワークの中核をなす技術である。実験レベルの実証が行われつつあるが、ここ1, 2年で市場が立ち上がると予想される。その中で、本研究開発は、様々なタイプの無線ノードを開発するなど、将来のセンサネットワークの実現形態を強く意識した研究計画となっている。申請企業は、ZigBee Alliance のメンバーであり、IEEE802.15.4 完全準拠した LSI を世界初で実現し、既に量産可能なレベルの TELEC 認証を受けており、多数のノードを利用した実証実験が可能である。このような状況のもと、本研究開発は先端的な技術を駆使して無線ノードを開発し、移動ノード対応、故障対応、スリープ制御、無線 LAN との融合、プロファイル検討など、実用化に向けて必要な技術の研究開発を行うもので、大きな影響度を持つと思われる。研究の必要性、緊急性の非常に高い研究開発であると言える。</p> <p>具体的な数値目標もきわめて明確であり、開発課題の内容および計画も具体的に詳しく記載されている。申請者は、標準化活動や、多くの特許出願や論文発表も行っており、国際的に高い研究開発水準を有していると思われる。また、市場が立ち上がる直前の研究開発であるので、他企業や大学などとの連携を強め、標準化などでも貢献を期待したい。</p> <p>実用化に必要な技術が確立できれば、数年内に大きな市場が立ち上がると予想される。</p> <p>事業化に関しては、類似製品・サービスの販売実績があり、将来成長が確実視されている分野でもあるため、事業化に対する期待は大きい。また、社内でも重要な位置付けを占めている研究開発課題であることが示されており、事業化に向けた体制が整備しやすい点は評価でき、一定の収益納付が期待される。</p> |
| 事業化評価 | 39 | | |